

《担当者名》中川賀嗣

【概要】

これまでのトップダウン形式の学習（疾患ごとの学習）ではなく、すでにトップダウン形式の学習で学んだ知識を活用し、ボトムアップ形式（症状から疾患へ至る形）での学習を行う。これにより、より深い理解を目指す。症例を通して症状を提示する形式を主とする。

【学修目標】

一般目標

1. 症状から鑑別すべき精神疾患を列挙できる。
2. 各疾患の鑑別点を説明できる。
3. 各精神科疾患の治療の流れ、治療上の留意点を知っている。
4. 各医療スタッフの役割を説明できる。

行動目標

1. 症状を記載できる。
2. 記載した症状について文献検索できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	オリエンテーション 精神科医療・介護等に関わるスタッフの確認	中川賀嗣
2	一般疾患の精神障害	一般疾患の精神障害	中川賀嗣
3	その他の認知症	認知症（疾患）	中川賀嗣
4	認知症のBPSD	認知症（BPSD）	中川賀嗣
5	精神疾患の鑑別	器質性精神障害、せん妄、気分障害の鑑別 認知症と遂行機能障害（前頭葉機能）	中川賀嗣
6	器質性精神障害(症状性含む)	疾患のまとめと症例	中川賀嗣
7	統合失調症	疾患のまとめと症例	中川賀嗣
8	気分障害	疾患のまとめと症例	中川賀嗣
9	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(1)	疾患のまとめと症例	中川賀嗣
10	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(2)	疾患のまとめと症例	中川賀嗣
11	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(3)	疾患のまとめと症例	中川賀嗣
12	摂食障害	疾患のまとめと症例	中川賀嗣
13	睡眠障害	疾患のまとめと症例	中川賀嗣
14	パーソナリティ（人格）障害	疾患のまとめと症例	中川賀嗣
15	まとめ	精神をめぐる制度・諸施策 精神疾患とりハビリテーション	中川賀嗣

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末試験100%。

【教科書】

資料を用いる。

【参考書】

【備考】

講義の中でレポートを作成、提出していただくことがある。

【学修の準備】

教科書であらかじめ各疾患について予習し、疾患ごとの具体的な病像を抱けるようにすること(80分)。
講義の内容を復習し、精神医学の講義全体について見渡し、相互の関係を理解すること(80分)。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

医師

【実務経験を活かした教育内容】

精神科医であることを活かし、精神医学の基礎、臨床について、自身の経験を交えて講義し、興味と理解を深める。特に症例を多く紹介する。